県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	山宮　紅葉	所　　属	社会人
大 会 名	京王 Jr.ウィンターカップ 2024―2025 2024 年度第５回全国 U15 バスケットボール選手権大会		
期　　間	２０２５年　1月４日～８日（参加日：４～６日）		
会　　場	武蔵の森総合スポーツプラザ		

ス ケ ジ ュ ー ル		
期　　日	内　　容	場　　所
1月　4日	1 回戦	武蔵の森総合スポーツプラザ
1月　5日	2 回戦	武蔵の森総合スポーツプラザ
1月　6日	3 回戦	武蔵の森総合スポーツプラザ

担当試合①	
期　　日	1月４日（土）　1回戦
対戦カード	就実中学校（岡山）vs 純心中学校（長崎）
ク　ル　ー	CC：関谷　洋平氏（東京）　U1：古見　高広氏（東京）　U2：山宮　紅葉（埼玉）

ミーティング内容	審判主任：浅見　好美氏（神奈川）

▶PGC

・BASIC なメカニクスを丁寧にしていく。

・それぞれのプライマリーでそれぞれの判定をしていく。 Position adjust を常に意識。

・CCM　→アウトオブバウンズ等の判定面、クロック系の管理の協力

・全中の結果やこれまでの両チームの試合結果やクリップでスカウティング内容の共有。

・マンツーマンコミッショナーが付きペナルティーの対応についての確認　（☆）昨年の JWC と変更点あり。下記参照

（☆）　赤色旗が上がり、それが同じチームの 2 回目以降の違反行為の場合は、最初にゲームクロックが止まった際、クルーチーフは TO 席の前に両チームのコーチを集める。コミッショナーからの説明後に、当該コー手に対し、テクニカルファウルのジェスチャーを用いて、マンツーマンペナルティをする。相手チームに

1 本のフリースローと、~~スロ―インラインからのスロインが与えられる。~~ボールの保持が変わらなかった場合は事象の起こった近い位置からのスローインとし、それ以外は相手チームのフロントコートのスローインラインからのスローインでゲームを再開する。

▶ゲーム後のミーティング

・ゲームにおいて必要な笛は入っていた。最後に勝敗を分けるプレイがあり、結果的にゲームが決まった。その中でファウルバランスに関しては、手の使い方等をより整理できると良かった。

・クロック系もクルーで協力できていて良かった。訂正もスムーズだった。

・現象について。→４Q 残り５８.４秒でセンターとリードのダブルホイッスルでリードのジャンプボールの判定にしたケース。
ダブルホイッスルではあったが、クルーで寄らなかった為、寄って確認するべきだった。

・個人の反省として、T⇨L に行く際に、セットアップポジションで始まることが多いので、ケースによってはクローズダウンポジションに近い場所でスタートしても良かった。視野を切ることもあるのでボクシングインを意識して目を当て続けることもしたほうが良い。

・ボール中心になってしまう時間帯がクルー全体でも個人でもあった。

・クルーのミーティングでは、基本的にゲームの中で必要な笛は吹けていた。

➡その中で、何をメッセージとしてイリーガルであるかを伝えきれなかった。４Q については現象についてクルーで寄るべきであった。

担当試合②	
期　　日	1月5日（日）　2回戦
対戦カード	秋田ノーザンハピネッツ U15 女子（秋田）vs 相模女子大学中学部（神奈川）
ク　ル　ー	CC：三野　雅氏（東京）　U1：片山　峻氏（京都）　U2：山宮　紅葉（埼玉）
ミーティング内容	審判主任：武藤　陽子氏（茨城）

▶PGC

・ベーシックなメカニクスの徹底。CCM を発揮できるように、情報共有もしていく。

・それぞれのプライマリーで丁寧に判定できるようにしていく。中学生の体格であったり、それぞれの技術やくせを掴み、予測して判定していく。

・中学３年生にとっては最後のゲームとなるので、丁寧に判定を積み重ねて良いゲームにしていく。

・両チームの過去の成績、スカウティング内容の共有。

・マンツーマンコミッショナーが付きペナルティーの対応についての確認　（☆）

＋昨日の全体のマンツーマンコミッショナーの対応状況について。

▶ゲーム後のミーティング

・延長戦のゲームとなったが、それぞれがよく判定をしていた。CC→全体を見て、ゲームをよくまとめていた。

・クロック管理についても、スムーズな訂正ができており良かった。

・クルーのミーティングでは、一つ一つの判定に対しては、それぞれが判定をしていけていた。

又、コーチのアクションに対しての対応をより丁寧にしていくべきだった。

→コーチがコミッショナーに対して判定面の話をしていた。必要なタイミングで、コミュニケーションをとりにいく必要があった。

・個人の反省として、「ゲームが動きそう」というタイミングで、より判定に参加したり、アングルを取りに行けると良かった。

又、全体の判定に対して不安感や緊張が見えてしまっていた。どうコートに立ち、自分を見せるのかの改善が必要。

•私自身、４Q４.４秒での１プレイで L にいた際に、ペイント内のプレイヤー同士のコンタクト（53―55　両チームファウル５）が気になった。ディフェンス（白）がオフェンスに対してシリンダーを超えているように見えた。しかしそれに対してオフェンスはそのコンタクトで大きな影響が出ているように見えなかった。

→もしここで白のディフェンスのファウルを吹いたら、私が試合を決めることになると感じた。結果的に笛入れずゲームを進めた。

一つの情報や自身の考えで判定してはいけない。もっともっと判定材料を早めにキャッチする。

→全体を通して、一つ一つの判定にもっと参加していく必要があった。積極的に判定を笛にする姿勢。

→プレイに対してフォーカスしすぎてしまうことが多い。

担当試合③	
期　　日	1月6日（月）　3回戦
対戦カード	KD　PIRANHANS（群馬）vs 仙台市立五橋中学校（宮城）
ク　ル　ー	CC：岩田　明穂氏（東京）　U1：穴見　健吾氏（大分）　U2：山宮　紅葉（埼玉）
ミーティング内容	審判主任：東條　輝正氏（東京）

▶PGC

・基本的なメカニクスを大切にしていく。CCM（それぞれの判定についてやクロック管理）

・それぞれのプレイにアングルアジャストしていけるように判定をしていく。ベンチにも視野を必ず向ける。

・これまで携わってきたチームや審判の方々がいて、今日のゲームがあることを考え判定を積み重ねていく。中学生にとっての貴重な経験をより良いものとなるように責任を持つ。

・両チームの今大会でのプレーヤメンバーについてや、過去の成績日ついてのスカウティング内容の共有。

→速攻が多いチームの New L の動きや、点を取るプレイヤー同士のマッチアップの予想。

→勝ち進んできて、両チームが互いのスカウティングを必ずしている。

・マンツーマンコミッショナーが付きペナルティーの対応についての確認　（☆）
　＋今大会における全体のマンツーマンコミッショナーの対応状況について。
▶ゲーム後のミーティング
・点数が離れたが、それぞれ必要なタイミングで判定ができ笛も入れることができていた。
・判定基準についてどうだったか。
　→前半は、両チームそれぞれのファウルを取り上げていた。（１Ｑは淡、２Ｑは濃も取る形となった）３Ｑでシンプルなファウルを鳴らせない時間帯あ理。ゲームコントロールという面でどうであったか。
・ベンチコントロール
　→淡チームのベンチのアクションや発言に対してのコミュニケーション。処置しないことによって、対のチームと温度差ができてしまった。
・個人の反省として、ファウル一つ取り上げる点に関しても、もっとプレイの全体を見るべきだった。（アングルやポジションを変える）→POC も変わってくる。
・ベンチとのコミュニケーションの取り方に関しても、クルーを見た理、正しく処置をするべきであった。

全体の感想

この度は、全国 U15 バスケットボール選手権大会へ派遣していただきありがとうございました。割り当てを頂いた３日間、私にとって、とても貴重な機会となりました。全力で試合に臨み、闘志を燃やす中学生の姿に心を打たれ、チームや保護者の熱を生身で感じました。バスケットそのものだけでなく、コート外での姿や仲間同士の関わりにおいて、今日というゲームにかけた思いが痛いほど伝わってきました。中学生とは思えない体格や技術を持ち、それぞれの戦い方をするゲーム一つ一つが、とても勉強となりました。高校生とは違う未熟な部分は当たり前にあ理ましたが、その中でどう判定を重ねていくかが難しかったです。　又、初めてお会いするクルーの方もおり、コミュニケーションや、クルーの基準を感じ取ることも意識することで、新たな発見がありました。県外の方や上級の方々と吹かせていただく中で、様々な学びと自分の新たな課題も見つかりました。様々なことを考えることで、より笛の重みを感じました。
三日間を通して、多くの情報を持って、考えて、自分の判定をしていくことがこんなに難しいことなんだと、大変勉強になりました。この場で得たバスケット審判員としての知識だけでなく、人として感じた様々な思いを忘れず、これからの活動に取り組み努めてまいります。

最後になりますが、お忙しい年末年始からご準備いただき、大会期間も長期間朝早くから夜遅くまで大会運営をしていただきました東京都バスケットボール協会の皆様、審判員の皆様、割当クルーや TO 役員、その他大会に関係するすべての皆様に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。